

足尾山塊：皇海山

◆日程 2022年6月4日(土)～5日(日)

◆メンバー L：OT、SD、OY、TY、DT

皇海山へは庚申山を経るロングコース一択。夏の縦走に向けた体力作りに最適だ。(記：OT)

6月4日(土) 天候：晴

皇海山の名前の由来は、昔は鋭く切り立った山容のこの山を、髪を留めるかんざし(こうがい)に見立て「こうがいさん」と呼ばれていたが、その後「こうがい」に「皇開」→「皇海」と当て字をして、そのために読みが「すかい」に変わったようだ。

OT車にて4名で横浜を出発。TYさんは前日銀山平キャンプ場にテント泊しお山めぐりをしてから庚申山荘で合流する予定。銀山平の登山者用駐車場は車がいっぱい端のスペースに無理くり駐車する。長い林道歩きの後、一の鳥居から蛙岩、鏡岩などの奇岩を見ながらのんびり歩いて行くとやがて庚申山荘に到着した。立派な2階建ての建物で外にバイオトイレもあり快適な小屋だった。ちょうどTYさんも合流し、中のテーブルで各自持ち寄りのつまみなどを出して乾杯する。そのまま早めの夕飯の焼き肉まで過剰にカロリーを摂取し、2階の寝床に移動してトランプで時間つぶしをしてから7時に就寝。小屋には30人程の登山者が泊まっていた。

(記：SD)

CT：6/4 銀山平 9:20-一の鳥居 10:20-庚申山荘 11:50

6月5日(土) 天候：曇のち晴

2:30起床。トマトリゾットを食べ4時出発。岩稜帯の多いルートなので最初からヘルメットを装着、ヘッドランプを点けて薄暗いなか歩き始める。1時間程で庚申山に到着。庚申山から鋸山までは11のピークを越えてゆく。7峰目の白山を過ぎると断崖岩場が連続する。鎖場と梯子をいくつか越えると鋸山の山頂に着いた。鋸山山頂は展望が良く、皇海山も眼前に聳え立っている。一旦かなり下ってから急登をひたすら登ると青銅の剣が出迎えてくれた。そのすぐ先が皇海山山頂だった。山頂には庚申山荘から我々と前後しながら登っていた5人組のパーティーがいた。アルペンクラブK2という山岳会でいろいろと意見交換をした。創立して2年しか立っていないそうだが50名以上のメンバーがいて20代の方も10名以上いるとのこと。帰宅後HPで確認すると入会金、年会費ともになしで初心者向けを謳った今風の山岳サークルのようだ。こういうのが今は受けるのだと納得した。

鋸山まで戻り分岐を六林 班峠へ向かう。ダケカンバや笹の道を下って行くと六林 班峠に着き、ここからは山の斜面に沿った巻き道をひたすら歩き続けた。単調な道のりを嫌になるほど歩き、本当に飽き飽きした頃やっと庚申山荘に着いた。デポしておいた荷物を回収して下山。また長い林道歩きの末銀山平に着いたのは16時近かった。本日の行動時間12時間なり。充実した楽しい2日間だったが本当にくたびれました。

(記：SD)

CT：庚申山荘 4:00-庚申山 5:00-薬師岳 6:05-鋸山 7:10-皇海山 8:30-鋸山 10:20-六林 班峠 11:00 - 庚申山荘 13:50-一の鳥居 14:50-銀山平 15:50

